

氏名： 小風 秀雅  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 教授  
学位： 文学博士（1995 東京大学）  
専門分野： 日本史学（日本近代経済史、経済政策史、交通史）、国際日本学  
E-mail： kokaze.hidemasa@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

近代化／世界遺産／不平等条約／企業史料論／地域史

modernization in Japan / World Heritage / un-equal treaty system / business archives / regional history

#### ◆主要業績

総数（14）件

- ・ L'intégration pour le patrimoine mondial et sa concentration sur le patrimoine industriel: le cas du Japon; pp.113-117, Patrimoine de l'industrie 22
- ・「第二次鉱毒調査委員会の設置と公害対策の提言」、『日光市文化財調査報告第二集 足尾銅山跡調査報告書』2、35?41 頁、1?49 頁
- ・『佐渡金銀山の歴史的価値に関する歴史学的・史料学的研究』全 164 頁
- ・『19 世紀世界システムのサブシステムとしての不平等条約に関する研究』（科学研究費研究成果報告書・基盤研究 (C)1852488) 全 116 頁
- ・『回想の湘南』（藤沢市史ブックレット 1）, 全 2 頁

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

不平等条約体制が東アジアにおいて果たした国際関係史的機能について、従来の支配・従属論ではなく、共存と協調を基礎とした、欧米との安定した関係を構築していたことを、日本・中国・朝鮮のケースを分析し、東アジアのみが 19 世紀後半期に独立した国家主権を保持しえた国際的条件を明らかにした。その後、これを基に 3 本の論文を執筆し、21 年度中に活字化される予定である。

世界遺産に関しては、文化庁で委員を勤めるとともに、九州・山口の近代化産業遺産、佐渡金銀山、足尾銅山、について、近代経済史の専門家としての立場から、検討・推進委員として調査や原案作成に関与している。関連して、経済産業省の産業遺産選定にも関与し、パリで開催された国際学会で報告し、論文を執筆したほか、政府広報 TV 番組にも解説者として出演した。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、日本近代史に関する講義・演習を担当した。講義では、19世紀の東アジアをめぐる国際関係について概観するとともに、不平等条約の国際关系的機能についてシステマティックに説明した。演習では、大久保利通に関する史料を選択させ、史料解説と問題発見の方法について指導した。卒業論文は6本指導した。このほか、産業遺産の現地調査を行い、フィールドワークを歴史学にも取り入れる試みを本年度も辞実施した。学生の反応も良く、着実に定着している。

大学院では、マスター5人、ドクター11人について、日本近代史に関する研究指導を行なった。また主査として博士学位論文1本を指導、学位を取得させた。修士論文では2本を指導し、ともに大学院後期課程に進学させた。また、博士前期課程では、指導した2名を入学させた。

## ◆研究計画

不平等条約体制について、単著を準備しているほか、日本の近代化に関する概説書を準備中である。また、これまでの交通史研究をまとめた研究書の刊行を計画している。

その後は、日本における近代国家の成立を、明治憲法の制定を軸として、行政的・政治的視点ばかりでなく、国民の形成の視点から、明らかにしたい。すでに論文を準備中であり、英文で発表する予定である。

世界遺産や産業遺産については、複数の自治体から調査研究を依頼されており、これを基礎として共同研究へと発展させることを計画している。

## ◆メッセージ

世界のなかで、より活動的かつ人間的に生きていくためには、ひとつの立場にとらわれなくて、世界を多面的かつ全体的にみることのできる教養と広い視野をもつことが絶対に必要です。それがないと、本当の意味での国際的コミュニケーションをおこなうことはできません。

さまざまな文化や歴史、社会をとらわれなくて見、理解し、行動するためには、歴史学の複眼的視点はとても役に立ちます。東洋史・西洋史とか、日本史といった地域にとらわれることなく、比較したり、関係への着目を通して、グローバルな視点をぜひ獲得してください。

最近ブームを呼んでいる世界遺産や産業遺産なども、人類史という視点から、自国の歴史や文化を見直す良いきっかけとなります。

大学という自由に活気に満ちた環境のなかで、21世紀を切り開く人材へと自己成長するためにも、ぜひ大学で、新しい歴史学に触れ、感動してほしいと思います。